

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		障害児保育園ヘレン経堂		公表日		2026年3月5日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10	4	物が増え過ぎた時は必要の有無を確認し不要なものは廃棄する。	特にトイレ・オムツ替えスペースに十分な広さがいないため、動線が混在しやすい。クラスごとに時間をずらすことで順番待ちを減らしている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	11	3	制度上の配置は確保しているが、より子どもに寄り添った遊び等ができるように配置や業務改善も含め調整を行う。ヘレン他園との複数園勤務スタッフの勤務調整も行っている。	保育内容やスタッフの知識の充実のために、園内や外部講師による勉強会を通して、より質の高い保育を実践できるよう検討していく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	12	2	保育室内で飲食するため玩具等が目に入り気がそれやすいが、カーテンやパーテーションを活用し空間づくりをしている	2階にあるため、緊急時等の移動への備えが必要であると考え、防災訓練を強化している。トイレが1ヶ所のため、トイレを使う時間をずらして工夫している。今後もパーテーション等でスペースを分けることを検討していく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10	4	活動にあわせてパーテーション等活用し空間づくりをしている。	活動と食事場面を分ける十分な部屋数は無いため、引き続き空間づくりに工夫が必要である。定期的な清掃、使用している物品の見直しを行い、よりよい空間づくりに努める。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	7	個別の部屋を作れないかわりに段ボールで作ったパーテーションで区切ったり、廊下など場面を変えて気分転換を図っている。	構造上個別の部屋をつくることができないので引き続き工夫していく	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9	5	安全、防災など係に所属し、担当業務を中心に業務改善に職員が参画している。	それぞれが取り組んでいる係のPDCAサイクルについて言語化し周知することを強化していく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13	1	保護者からの評価を職員に共有し、業務改善につなげている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11	3	係や職員MTG、日報を中心に意見をすくい上げ、業務改善につなげている。	職員人数が多いため、全員の意見を把握するために工夫が必要である。常勤・非常勤問わず、スタッフの意見を取りまとめられるよう努める。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9	5		第三者による外部評価は行っていませんが、実施についても検討を継続しています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	14	0	救命救急、摂食、溺水、重心児の姿勢介助、呼吸器、虐待防止などの勉強会を事業所内で実施している。 研修ガイドラインにのっとり社外研修の活用も推奨している。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	13	1	ホームページに掲載している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	13	1	各職種でアセスメントを行い、担当者間でモニタリングを実施し、多面的に分析した上で個別支援計画の作成に取り組んでいる。	計画の作成について職員への周知を徹底していく。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	12	2	児発管を中心に担当保育スタッフ・看護スタッフをチームで検討を行っている。 完成した計画書を全職員が確認できるよう回覧を行っている。	計画の作成について職員への周知を徹底していく。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	13	1	作成した計画を職員全員に共有している。 支援計画を個別の記録に表記し、いつでも見られるようにしている。	日常的に計画を見返し、計画を意識した支援ができるよう職員全員で心がけていく	

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	6	標準化されたアセスメントシートと、インフォーマルなアセスメントを使用して確認している。	アセスメントツールを職員全体に周知することが課題。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	13	1	個別支援計画は、ガイドラインに基づいて作成し、支援内容の妥当性について各職種の担当者間で評価しながら策定している。	計画の作成について職員への周知を徹底していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	11	3	保育スタッフ中心に立案し看護師やリハビリスタッフも含めたチームで話し合いながら作成している。	活動プログラムの作成についても職員への周知を行っていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	13	1	ミーティングを通して月の目標や活動内容の概要を決めており、プログラムが固定化しないよう配慮している。季節行事等を取り入れてバリエーション豊かなプログラムを提供できるよう工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	13	1	こどもの個性に合わせながら、集団活動を行っている。	計画の作成について職員への周知を徹底していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	5	事前の打ち合わせ時間を設けることができない時は、書面等で事前に確認できるように提示している。	保育全体MTGは定期的実施しているが、クラスごとのMTG時間も定期的に設けることができるよう工夫する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	8	毎日とはできないが、月の終わりにクラス担任中心に振り返りを行なっている。振り返った内容を職員に回覧・周知している。	振り返った内容の周知方法を工夫していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	14	0	支援記録を毎日記載している。	検証した内容を職員全体に周知する方法を工夫していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	14	0		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	13	1	支援会議が開催される際は、児発管をはじめとする担当者内で状況をよく理解しているスタッフを選出し、参加している。	職員への周知を徹底する。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	13	1	相談支援員をはじめとする関係機関の担当者との連携を図り、必要に応じて受診やリハビリ同行、併行利用している他事業所への見学や聞き取りを行っている。	職員への周知を徹底する。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10	4	就学に向けて、就学先の学校や利用予定の放課後等デイサービスとの情報連携を行っている。	地域の保育園等との積極的な交流を検討していく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	14	0		
	28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7	7		今後、区の中核的拠点施設との連携を図り、助言を受けたり勉強会の依頼を検討していく。
	29	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	10	4	同施設内の一次保育施設との交流をしている。同施設内の子育てひろばに出向いている。	散歩やイベントなどを通じて交流の機会を持てるよう工夫していく。
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	13	1	連絡帳、送迎時のお話、電話等を活用してご家庭と情報共有をしている。半期に一度の個別支援面談で発達の状況や計画についてすりあわせをしている。	

	31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	7		家族支援プログラム設定は行っていません。家族支援が必要と思われるケースは関係者と検討会を開催し保護者支援を行っています。
保護者への説明等	32	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	12	2	契約説明と個別支援面談の中で説明をしている	職員への周知も徹底する。
	33	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	14	0		
	34	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	14	0		
	35	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	13	1	半期ごとの支援面談以外でも、保護者からの困りごとに対して必要に応じて話す機会を設けている。	職員への周知も徹底する。
	36	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	11	3	親子遠足、親子で遊ぼうデーなど企画して家族の交流会を行っている	
	37	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	14	0		
	38	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	11	3	園だよりを定期的に発行している。	連絡帳アプリの掲示板を整備・活用し、情報発信に努める。
	39	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	14	0		
	40	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	13	1		状況、状態に合わせた工夫や配慮に努めている。
	41	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	6	子ども子育て総合センターと合同の夏祭りを行い地域住民にも参加してもらった。	今後も地域を巻き込んだイベントなどを検討していく。
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	13	1	マニュアル作成に留まらず、救命救急講習、嘔吐処理対応、不審者訓練等を実施している。	訓練に参加していない職員にもマニュアルを確認するよう周知していく。
	43	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	14	0		
	44	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	14	0		
	45	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	14	0		
	46	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	13	1	安全計画を策定し、定期的な研修・訓練を実施している。	職員への周知も徹底する。
	47	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	12	2	作成した安全計画は、連絡帳アプリ内の掲示板で提示している。	
	48	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	14	0		
	49	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	14	0		
	50	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	14	0	身体拘束を行う場合、必要性や方法についてチームで検討し、個別支援計画に記載のうえ保護者に説明・同意を得たうえで実施している。	